

1 号議案

福山市緑の基本計画の改定について

1. 現行計画の達成状況について（報告） P. 2
2. 新たな計画の方向性（案）について P. 8
3. 市民アンケート（案）について P.14

- 現行計画で設定した ①「みどりの確保目標」、②「都市公園等の確保目標」、③「その他の緑化目標」について、それぞれ達成状況を整理。

①みどりの確保目標

項目	現行計画 策定時点 (2008年度)	目標値 (2025年度)	現況 (2025年度)	達成状況
a) 市街地のみどり※1	20.1(%)	22(%)	22(%)	達成
b) 市街地及び近郊における 持続性のあるみどり※2	11.9(%)	15(%)	12(%)	未達成

- b) 良好な自然景観を有する市街地近郊の民有地について、緑の保全を目的とした土地利用規制（緑地保全地域の指定）を検討していたが、土地所有者の合意形成等に課題があり、指定に至っていない。

※1 市街化区域の緑被率

※2 市街地及び近郊において、都市公園、都市公園以外の公共施設の緑地、民間施設緑地、地域制緑地など法や条例等により区域が指定されたみどり

②都市公園等の確保目標

項目	現行計画 策定時点 (2009年)	目標値 (2025年度)	現況 (2025年度)	達成状況
C-1)一人当たり都市公園面積※ ¹	6.98(㎡/人)	10(㎡/人)	7(㎡/人)	未達成
C-2)一人当たり都市公園等面積※ ²	16.7(㎡/人)	20(㎡/人)	17(㎡/人)	未達成

- 目標未達の要因は、公園整備量が予測を下回ったこと、将来人口を過小評価していたこと。
- 市街地において計画的な公園整備が概ね完了する中で、公園に対する課題意識は、既存の公園の維持管理や規制緩和による有効活用などに変化。相対的に公園の整備面積は伸びが鈍化している。

※1 都市計画区域における都市公園の1人当たり面積。
過去の公園整備の進捗率及び都市マスタープランの将来人口推計を基に設定。

※2 ※1に他の公共施設緑地（子ども広場や森林公園、その他管理地等）を加えた一人当たり面積。

③その他の緑化目標

道路

【緑化目標】

- ・ 3m以上の歩道を有する幹線道路では可能な限り緑化を推進。
- ・ 道路の特徴やイメージが明確になるような緑化を推進。

【目標達成状況】

- ・ 幹線道路の計画的な整備に伴い、街路樹の整備路線（及び区間）は増加。
- ・ 十分な歩道幅員が確保されていない箇所では、道路空間の安全確保の観点から、既存の街路樹の伐採や低木への更新が進められている。

街路樹整備路線及び区間の累計

計画策定時 (2008年度時点)	現況 (2024年度時点)	増加数 (2008～2024年度)
75路線 (132区間)	88路線 (159区間)	+ 13路線 (+27区間)

注) 区間は工事区間を一つの単位とする。

【問題点】

- ・ 既存の街路樹の大径木化や老木化の進行に伴い、倒木リスクや景観面への影響が顕在化している。
- ・ 上記影響などにより、全体の本数は減少傾向。
(2008年度：約8,300本 → 2024年度：約6,700本)
- ・ 今後、更新や維持管理コストの増大が懸念されている。

河川

【緑化目標】

- ・ 自然環境の保全・再生を目的に、親水性の高い河川整備を推進。

【目標達成状況】

- ・ 河川改修に際し、親水性の高い河川整備を実施。
- ・ 大小様々な河川において、水と緑のネットワークが形成されている。



(左) 芦田川(上山守地区)の河道掘削時に魚の産卵場所となり、豊かな生態系を育む入江を整備

(右) 芦田川緑地かわまち広場の親水空間。都市・地域再生等利用区域の指定を受け、賑わい創出に寄与している。

【問題点】

- ・ 治水、利水、環境に関する様々な整備が行われており、今後、維持管理コストの増大が懸念されている。

③その他の緑化目標

都市公園

【緑化目標】

- ・ 街区公園及び運動公園：緑被率30%以上
- ・ その他の住区基幹公園等：緑被率50%以上
- ・ 都市緑地：緑被率80%以上
- ・ 墓園：緑被率60%以上

【目標達成状況】

- ・ 全ての公園区分において概ね緑化目標を達成。

公園区分	目標達成状況		
	緑被率		【参考】 目標を達成 した公園の 割合
	目標とする 緑被率	現況の 緑被率	
街区公園及び運動公園	30%以上	32%	29%
その他の住区基幹公園 及び都市基幹公園	50%以上	57%	46%
都市緑地	80%以上	85%	32%
墓園	60%以上	59%	0%

【問題点】

- ・ 既存の樹木の大径木化・老木化の進行に伴い、倒木リスクや景観面への影響が顕在化している。
- ・ 今後、更新や維持管理コストの増大が懸念されている。
- ・ 全体の緑被率としては目標を概ね達成しているが、個別で目標を達成した公園は半数以下となった。

公共施設

【緑化目標】

- ・ 教育施設：緑被率10%以上
- ・ 官公庁施設：緑被率10%以上
- ・ 福祉・文化施設：緑被率18%以上
- ・ 公営住宅：緑被率10%以上
- ・ 医療施設：緑被率10%以上

【目標達成状況】

- ・ 福祉・文化施設、官公庁、公営住宅では概ね達成。
- ・ 教育施設、医療施設では目標未達。

施設区分	目標達成状況		
	緑被率		【参考】 目標を達成した 施設の割合
	目標とする 緑被率	現況の 緑被率	
福祉・文化施設	18%以上	27%	40%
官公庁施設	10%以上	17%	24%
公営住宅	10%以上	10%	30%
教育施設	10%以上	8%	24%
医療施設	10%以上	2%	0%

【問題点】

- ・ 新築時を除き、敷地の制約上、植栽を確保することが困難なケースが見受けられる。
- ・ 全体の緑被率としては目標を達成しているが、個別で目標を達成した施設は半数以下となった。

③その他の緑化目標

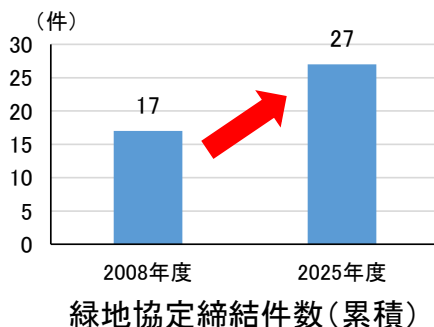
大規模開発

【緑化目標】

- 住宅団地などの開発では、緑化地域、地区計画の指定及び緑地協定の締結などを誘導し、良好な景観を創出する。

【目標達成状況】

- 補助制度を創設し、緑地協定の締結を促進した結果、東部地域を中心に複数の住宅団地で緑地協定が締結され、計画的な緑化が進められた。
- 箕島地区工業団地では環境保全協定が締結され、景観に配慮した緑化が行われている。



緑地協定を結ぶ住宅団地

【問題点】

- 住宅団地の開発件数は減少傾向にあり、今後、新規に協定を締結する事案は数多く見込めない。
- 協定期間の満了を迎える地区が増え、継続的な緑地の保全について懸念がある。

工場などの事業所

【緑化目標】

- 地域防災や景観の向上等を目的として、可能な限り、事業所敷地の緑化を促進する。

【目標達成状況】

- 環境やSDGsを重視する社会的風潮を背景に、経営戦略の一環として緑地の整備に取り組む企業もある。
- 条例に基づき、事業所敷地内に10%以上の緑地を設ける努力義務を課しているが、基準を満たすケースは少ない。

施設面積規模ごとの緑化協議件数及び緑化率(2009～2024)

対象面積	目標とする緑化率	協議件数	緑化率(平均)	達成した事業所の割合
3,000㎡以上	10%以上	98件	6%	15%
3,000㎡未満	10%以上	190件	3%	9%

【問題点】

- 市街地においては、敷地に余裕がないこと、駐車場を優先するケースが多いことなどから、10%以上の緑地を確保することは困難な状況にある。
- 緑化基準に拘束力がなく、仮に緑化基準を満たしても事業者インセンティブが少ないため、協議そのものが形骸化しつつある。

③その他の緑化目標

住宅（啓発）

【緑化目標】

- ・ 苗木や樹木の配布、啓発イベントを充実し、緑を育む心を醸成する。
- ・ 各種助成制度の充実、緑化活動団体や人材の育成に取り組み、協働のまちづくりを促進する。

【目標達成状況】

- ・ 樹木やばら苗を約26万本配布。
- ・ 福山ばら大学を創設し、ばらのまちづくりを担う人材を育成。



↑ 現行計画期間中のばら等の
配布数(累積)の推移

【問題点】

- ・ ばらや樹木を配布したことによる効果が把握できていない。

その他の緑化の取組状況

●森林・里山

市民の森づくりへの参加を促す講習会の開催や、住民団体・NPO等が企画・立案する里山保全事業などにより、協働による里山の保全活動が展開されている。



森林整備講習会



里山保全活動

●農地

有機農業に取り組む事業者を支援し、生態系に配慮した環境保全型農業を推進。耕作放棄地対策事業により耕作放棄地の解消にも努めている。



耕作放棄地対策事業

●普及・展開

- ・ 樹木やばら苗の配布事業（再掲）のほか、緑化啓発のイベントを展開。
- ・ 「世界ばら会議」の開催や市内各所のばら花壇植栽、「ばら花壇コンクール」等の各種イベントによりばらのまちづくりを推進。



世界バラ会議の様子

【課題】

- ・ 森林や里山、農地、ばらの植栽といった地域を特徴づける緑は、地域の魅力・快適性向上に資する重要な地域資源であることから、これらのみどりが持つ多面的機能を各種政策に位置付け、保全・利活用を促進していく必要がある。

社会的潮流への対応

みどりが持つ様々な機能や効果を最大限に発揮し、自然共生社会の実現、暮らしの質の向上、まちの魅力向上（地域課題の解決）に繋げる。



福山市みどりの審議会における主な意見（前回）

- ✓ 既存の公園の樹木や街路樹が老朽化する中、維持管理や更新が重要な課題となっている。
- ✓ 一部の緑は減少傾向にあり、国が求める市街地の緑被率（30％）確保は容易でない。
- ✓ 本市の地域特性を踏まえ、市街地に近接した緑も含めて検討してもよいのではないか。
- ✓ 都市の中で農地が果たす役割を再認識するなど、個々の緑に付加価値を見出す視点も必要
- ✓ 拠点となる緑をつなげ、ネットワーク化していく広域的な視点も必要
- ✓ 地域の特性に応じて重点的にやるべきことを明示し、実現性の高い計画を目指すべき
- ✓ 若い世代も環境に対する意識は決して低くない。貴重な緑を後世につなぐ意識も重要

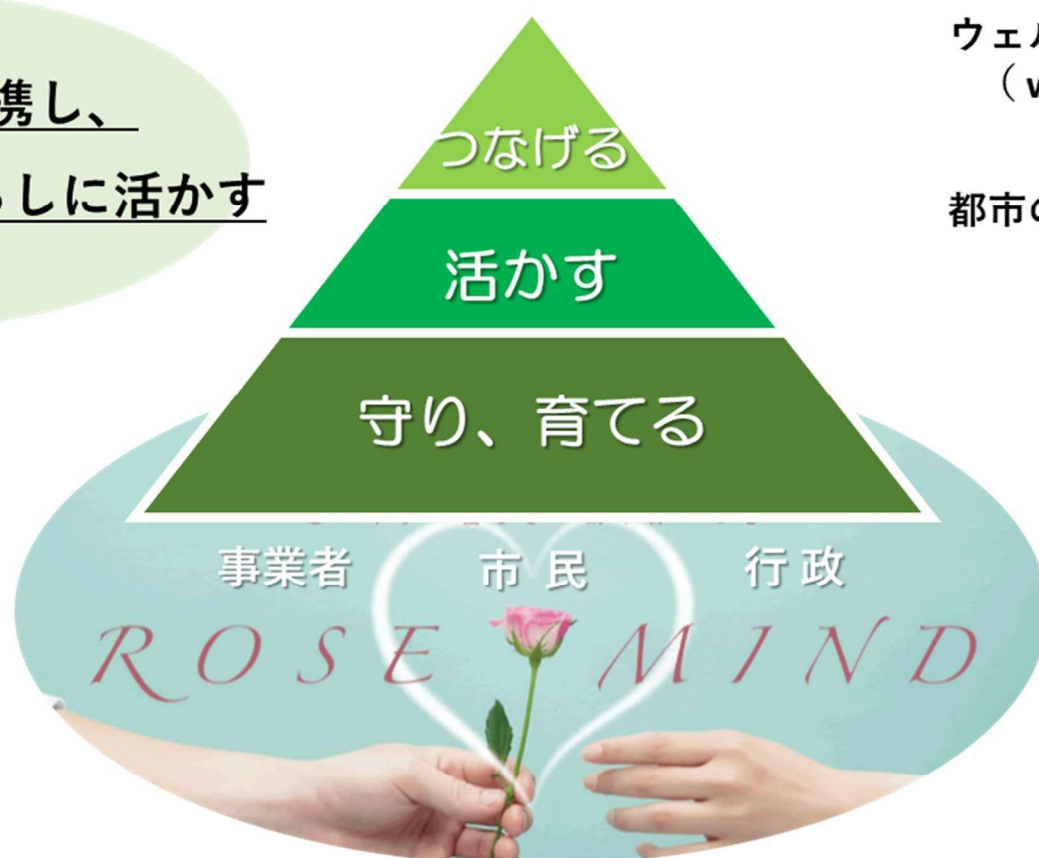
現行計画の達成状況

市民ニーズ（アンケート）

※11月実施予定

新たな計画の基本的な方向性（案）

多様な主体が連携し、
みどりのチカラを暮らしに活かす

ウェルビーイングの向上
（well-being）都市の魅力や景観の向上
地域課題の解決

環境保全

「量」から「質」へ

都市のみどりは、地球環境や生活環境を保全する上で重要な役割を果たしています。特に、里山や水辺、ばらなど、福山の原風景を形づくるみどりは、大切な地域資源であり、そこに暮らす人々のアイデンティティやシビックプライドの形成にも深く関わっています。また、身近なみどりは、心身の健康や豊かな暮らしを支える生活基盤であり、人と人、人と自然をつなぐハブとしての役割も期待されています。

このため、多様な主体が連携して、これらのみどりを守り、育て、次世代に継承するとともに、公園や緑地、ばらをまちづくりに積極的に活用し、地域課題の解決やウェルビーイングの向上に繋げていきます。

具体的な取組方針（案）

■方針1 みどりを通じた暮らしの質と健康の向上

身近なみどりは、心身の健康や豊かな暮らしを支える基盤です。これらのみどりを守り、育て、利活用を図ることにより、人と人、人と自然の交流を促進し、誰もが健康で快適に暮らせる都市環境を創造します。

■方針2 協働によるまちづくりの促進

ライフスタイルや価値観が多様化する社会において、行政だけで全ての市民のニーズに応えるには限界があります。市民・企業・行政が力を合わせて、ばらや緑の育成、公園の管理や利活用に取り組む機運を醸成します。

■方針3 地域資源としてのみどりの継承

里山や水辺、ばらなど、福山の原風景を形づくるみどりは、本市の大切な地域資源です。これらのみどりを次世代に継承し、アイデンティティやシビックプライドの形成、都市ブランドの向上に繋げていきます。

■方針4 脱炭素・環境共生都市への貢献

みどりは、CO₂の吸収や気温上昇の抑制など、脱炭素社会に貢献します。

可能な限り、都市の緑化や自然との共生を進め、環境にやさしく持続可能なまちづくりを推進します。

■方針5 みどりによる安全・安心なまちづくり

みどりは、災害に強く、快適で安心して暮らせるまちを支えます。

防災機能を持つ公園やグリーンインフラを整備し、災害にも強い強靱な都市環境をつくれます。

市民や事業者の共感が得られる目標を設定することが重要

「緑化の量的目標」、例えば「緑化率〇〇%」などの数値目標は、専門家や行政にとって重要な指標ですが、市民にとっては生活実感に結びつきにくく、共感を得にくいという課題があります。

このため、協働による緑のまちづくりを進める上では「量だけに頼らない目標設定」が必要なのではないかと考えています。

目標（たたき台）

① みどりに対する市民満足度（質的目標）

今回、アンケートにより把握

項目	現況 (2025年度)	目標値 (2050年度)
福山市全体の「みどりの質(美しさ・手入れ・安全性など)」について「よい」「どちらかと言えばよい」と回答した人の割合	〇〇%	70%

② みどりの確保目標（量的目標）

※市街地を縦断する芦田川緑地を加算（別紙参照）

4 %の上積みは現実的に困難かも

項目	現況 (2025年度)	目標値 (2050年度)
「市街地のみどり」及び「市街地近郊の持続性のあるみどり」※	26%	30%

2. 新たな計画の方向性について（案1）

11

（参考）市街化区域の緑被面積に芦田川緑地を加えた場合の緑被率の試算



① 市街地の面積 （市街化区域面積）	9,716ha
② 市街地の緑被面積 （市街化区域の緑被面積）	2,104ha
③ 市街地近郊の永続性のある緑の面積 （芦田川緑地の面積と仮定）	574ha
「市街地の緑」及び 「市街地近郊の永続性のある緑」の割合 （市街化区域に芦田川を加えた緑被率）	$(② + ③) / (① + ③)$ 26%

その他の指標（候補）

① みどりに対する市民満足度（質的目標）

項目	現況 (2025年度)	目標値 (2050年度)
福山市全体の「みどりの量」について、 「多い」又は「やや多い」と回答した人の割合	〇〇 %	70 %

② みどりに対する市民満足度（質的目標）

項目	現況 (2025年度)	目標値 (2050年度)
お住まいの地域の「みどりの量」について、 「多い」又は「やや多い」と回答した人の割合	〇〇 %	70 %

③ みどりのまちづくりに対する参加の意向（質的目標）

項目	現況 (2025年度)	目標値 (2050年度)
みどりのまちづくりへの取組への参加について、 興味・関心が「ある」又は「少しある」と回答した人の割合	〇〇 %	50 %

➤ 評価指標となる満足度等を把握できるアンケート（別紙参照）を検討。

項目	用途	想定する設問	主な分析(案)
① 属性確認	クロス集計	性別、年齢、住まい	□ 年代別等クロス集計に使用
② みどり関連	評価指標	● みどりの量について(市全体) ● みどりの量について(町内) ● みどりの質について(市全体) ● ばらの量について(市全体) ● ばらの量について(町内) ● ばらの質について(市全体) ● みどりの種類ごとの意見	□ みどりとばらの豊かさの評価指標として定量化
③ 公園・緑地関連	評価指標	● 公園の利用実態(利用目的、利用頻度、滞在時間、居心地の良さ)	□ 公園の快適性向上を目指す評価指標として定量化
④ みどりのまちづくり関連	評価指標・施策検討	● みどりの役割の重要度と満足度 ● 必要と思う取組 ● 取組参加への興味・関心 ● みどりのまちづくりへの取組意向 ● 取組への参加状況と今後の意向 ● 参画促進のために必要と思う支援策	□ 各項目について重要度と満足度を同時に問うことで、取り組むべき課題の優先順位付けを行う。
⑤ ばらのまちづくり関連	評価指標・施策検討	● 取組参加への興味・関心 ● 取組への参加状況と今後の意向 ● ばら苗や樹木の配布の利用状況 ● ばら苗や樹木の配布を利用しない理由	□ 各項目について重要度と満足度を同時に問うことで、取り組むべき課題の優先順位付けを行う。